

# ひだご坊

No.369  
2020年4月20日

発行 真宗大谷派 高山教務所  
発行者 出雲路 善公  
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地  
☎(0577)32-0776  
\*毎月20日発行 50,000部  
三市一郡無料配布  
印刷 山都印刷株式会社

## 念じられ 照らされて

### 急かされない場所

市野 智行



（略歴）  
一九八三年、名古屋生まれ。  
名古屋教区道誠寺若院。  
真宗大谷派提議。  
同朋大学文学部仏教学科専任講師。  
仁愛大学非常勤講師。

「お寺はどんな場所ですか？」。法事が終わり、帰り支度をしている際に投げかけられた男の子からの質問です。「うーん」と悩みながら私はこう答えました。「急かされない場所かな」と言うまでもなく、その男の子は腑に落ちない顔をしていました。

さて、皆さんにとって「お寺」とはどんな場所でしょうか。

男の子に対する私の答えには、とある出来事が関係しています。今から四年前、私が高校の宗教の授業を担当していた時です。休み時間、些細な会話の中で、男子学生が「先生。今は何でも便利だけど、正直生きにくいよ」と呟いたのです。私はこの一言が長い間心に残っていました。

現代の利便性は「時間の短縮」と「自由な選択」の二つで定義できます。私は名古屋に住んでいますが、東京まで新幹線を使えば約一時間三分、二〇二七年にリニアが開通すれば、約四〇分で行くことができます。便利であることは時間を短縮することです。また現代は、「スマホ」があれば、自由に何でも選ぶことができます。旅行の際、どのサイトから予約すれば一番お得に泊まるか、自由に出るのか、一目瞭然です。誰もが自分にあつたプランを選択するでしょう。便利であることは自由な選択を意味します。即ち、便利であることは、より早く、より自由という世界です。

では、以前より時間の有効化に成功した私たちは、時間に対して寛容でしょうか。

急かされて生み出されるものには、伸縮性や弾力性はありません。そして、それはマフラーだけでなく、人間も同じです。より早く、より簡潔に、より便利に。換言すれば私たちは「間」をなくす作業に日々を費やしています。時間、手間、世間、空間。その「間」は当然「人間の「間」でもありません。本来、関係という名のつながりの中で育まれるはずの人間味・人間らしさ（伸縮性や弾力性）が損なわれつつあるのが現代です。そこに「生きにくさ」を感じるのだと思います。

もしかしたら、お寺は人間の「間」を取りもどすことのできる場所の一つなのかもしれません。私たちは「急かされない場所」でこそ、生きる上での余韻や情緒を感じることができるとは思いません。

急かされて生み出されるものには、伸縮性や弾力性はありません。そして、それはマフラーだけでなく、人間も同じです。より早く、より簡潔に、より便利に。換言すれば私たちは「間」をなくす作業に日々を費やしています。時間、手間、世間、空間。その「間」は当然「人間の「間」でもありません。本来、関係という名のつながりの中で育まれるはずの人間味・人間らしさ（伸縮性や弾力性）が損なわれつつあるのが現代です。そこに「生きにくさ」を感じるのだと思います。

現代の利便性は「時間の短縮」と「自由な選択」の二つで定義できます。私は名古屋に住んでいますが、東京まで新幹線を使えば約一時間三分、二〇二七年にリニアが開通すれば、約四〇分で行くことができます。便利であることは時間を短縮することです。また現代は、「スマホ」があれば、自由に何でも選ぶことができます。旅行の際、どのサイトから予約すれば一番お得に泊まるか、自由に出るのか、一目瞭然です。誰もが自分にあつたプランを選択するでしょう。便利であることは自由な選択を意味します。即ち、便利であることは、より早く、より自由という世界です。

では、以前より時間の有効化に成功した私たちは、時間に対して寛容でしょうか。特にマフラーの製造で注目され、鮮やかな色合いと弾力性を高く保つ編み込み技術で知られています。その製造過程は強いこだわりで満ちています。ラッセル編み機という旧式の低速編み機を使い、時間と手間をかけて二つ二つ丁寧に作られます。なぜ一見非効率な低速編み機を使うのか。それは時間をかけてしか作れない伸縮性と弾力性を生み出すためであると松井さんは言います。

急かされて生み出されるものには、伸縮性や弾力性はありません。そして、それはマフラーだけでなく、人間も同じです。より早く、より簡潔に、より便利に。換言すれば私たちは「間」をなくす作業に日々を費やしています。時間、手間、世間、空間。その「間」は当然「人間の「間」でもありません。本来、関係という名のつながりの中で育まれるはずの人間味・人間らしさ（伸縮性や弾力性）が損なわれつつあるのが現代です。そこに「生きにくさ」を感じるのだと思います。

もしかしたら、お寺は人間の「間」を取りもどすことのできる場所の一つなのかもしれません。私たちは「急かされない場所」でこそ、生きる上での余韻や情緒を感じることができるとは思いません。

急かされて生み出されるものには、伸縮性や弾力性はありません。そして、それはマフラーだけでなく、人間も同じです。より早く、より簡潔に、より便利に。換言すれば私たちは「間」をなくす作業に日々を費やしています。時間、手間、世間、空間。その「間」は当然「人間の「間」でもありません。本来、関係という名のつながりの中で育まれるはずの人間味・人間らしさ（伸縮性や弾力性）が損なわれつつあるのが現代です。そこに「生きにくさ」を感じるのだと思います。



**問** コロナウイルスが怖い……。お葬式とか法事とか、やっぱり避けたい方がいいんじゃないか？

**答** 飛騨地方ではまだ感染者が出ていません（四月十日現在）が、ヨーロッパやアメリカ等、世界規模での感染拡大を見るかぎり、感染力は強いです。それはマフラーだけでなく、人間も同じです。より早く、より簡潔に、より便利に。換言すれば私たちは「間」をなくす作業に日々を費やしています。時間、手間、世間、空間。その「間」は当然「人間の「間」でもありません。本来、関係という名のつながりの中で育まれるはずの人間味・人間らしさ（伸縮性や弾力性）が損なわれつつあるのが現代です。そこに「生きにくさ」を感じるのだと思います。

あります。この問題はすでに「他人事」ではないのです。しかしウイルス以上に怖いのは、これをきっかけに、私たちの関係性の根っこが「バラバラ」になってしまふことではないでしょうか。先日、感染の現場にいる医療従事者の子どもに対して、保育所で「差別」がされているという記事を見かけました。「目に見えないモノ」に対する恐れや不安が、根拠もなく、現場に近い人、被害に遭った人へと向けられていく……。人を差別し、そして自分が差別されることを恐れるこの構造は、九年前、東日本大震災で「放射線被害」の現場で見られたものとまったく同じです。今回の「コロナ禍」を前に、私たちはようやく被害の「当事者」になったのかもしれない。

法事は延期、葬儀はごく小規模なものとなるかもしれない。ウイルスで亡くなった方とは、火葬場からお骨になつて帰ってくるまで再会できないようです。こちらの思いとは裏腹に、できないことは有無を言わずできなくなるのですから、できることを、できるかたちでやる以外にありません。誰もがなすべきは、他者を排除せず、この問題をあくまで当事者として「共に」受け止めていくこと。改めて、亡き人をご縁に、共に集い、仏さまに手を合わせることに「有難さ」が思われます。

## あなたは狙われている

### 大学などの新生がいるご家庭へ



オウム真理教の事件から約20年。カルト宗教は収束した問題ではありません。今も様々な勧誘方法を駆使して、入信した信者に全てを委ねさせ、その人の自由な思考や判断を奪い支配しようとしています。その結果、家庭生活が破壊され、社会的立場が失われ経済的にも追いつめられるという事象が起っています。

親元を離れて新しい学生生活が始まるこの時期、家やこれまでの友だちとも別れて一人で不安が多い時でもあります。そんな時カルトは、とても優しく親しげに声をかけて友人関係を作りながら、言葉巧みに誘ってきます。

その勧誘については、大学なども注意を呼びかけるので構内で誘うことは少なくなっています。現在はインターネットを介して新入

生歓迎の催し、就活セミナー、ボランティアサークルなどの呼びかけや個人的接触から勧誘に入るケースが増加しています。

もちろん様々なサークルや活動への呼びかけがすべてカルトの勧誘というわけではありません。肝心なことは、たまたま出会った誘いがカルトの勧誘であることに気づき、深みに嵌る前に引き返すことです。そのためにも必要なことは、こうした問題があることをしっかり知っていただくことです。

真宗大谷派では、こうした問題を知っていただくために学生向けのパンフレットを用意しています。ご入り用の方は教務所までお問い合わせください。



カルト問題の詳細についてはこちら

☎テレホン法話(0577)342313 ☎4月21日〜30日:藤守博氏「一念寺」 ☎5月1日〜10日:白川悟氏「願生寺」 ☎5月11日〜20日:宮川曉声氏「暎芳寺」 宗教トラブル相談窓口(0577)3210763

